

関心・意欲・態度の評価について

横浜国立大学教授であった中村祐治先生に「関心・意欲・態度」の評価について研修会で講義をしていただきました。中村先生からは「関心・意欲・態度」を一時的に表出した行動や態度（提出物のチェック，忘れ物の回数，私語の有無，授業態度，挙手の回数）で評価するのではなく，生徒がワークシートに記載することで，育った姿（育てた姿）を記載内容から読み取る評価方法を紹介していただきました。

詳しくは 開隆堂出版株式会社 編著者 中村祐治他3名

『これならできる 授業が変わる 評価の実際 「関心・意欲・態度」を育てる授業』
をご覧ください。

関心・意欲・態度の評価

関心 （生活や技術に関する関心，材料・情報に対する関心）

意欲 （自ら進んで学習【調べ・表示・考え・操作】などをしようとしている意欲）

態度 （技術を生活で活用する態度，生活を充実向上するために実践していく態度）

関心・意欲・態度の性格

- ①見えにくい
- ②個人差がある
- ③学習意欲の喚起につながる
- ④学習成果を生かす実践力につながる
- ⑤積み重ねが必要で学力醸成に時間がかかる（指導により形成され育つ学力）

関心・意欲・態度は見えにくい

見えないものだが，大切な評価の観点，学習活動で育てる観点

I 内面を見とるのは困難だから表出したもので読みとる

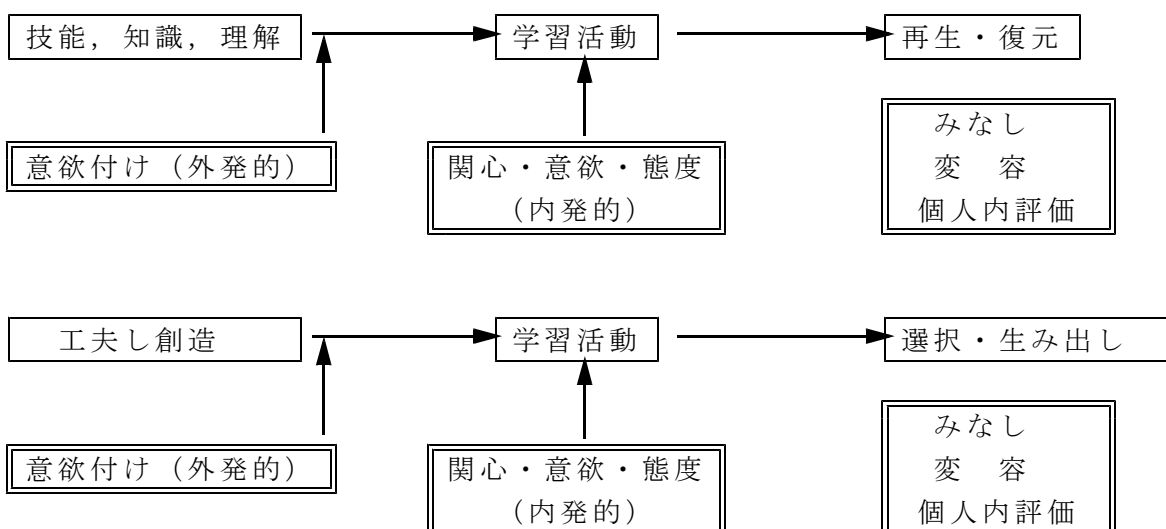
II 関心・意欲・態度を分けてみる

III 授業単位でなく，長いスパンでみる

I 内面を見とるのは困難だから表出したもので読みとる

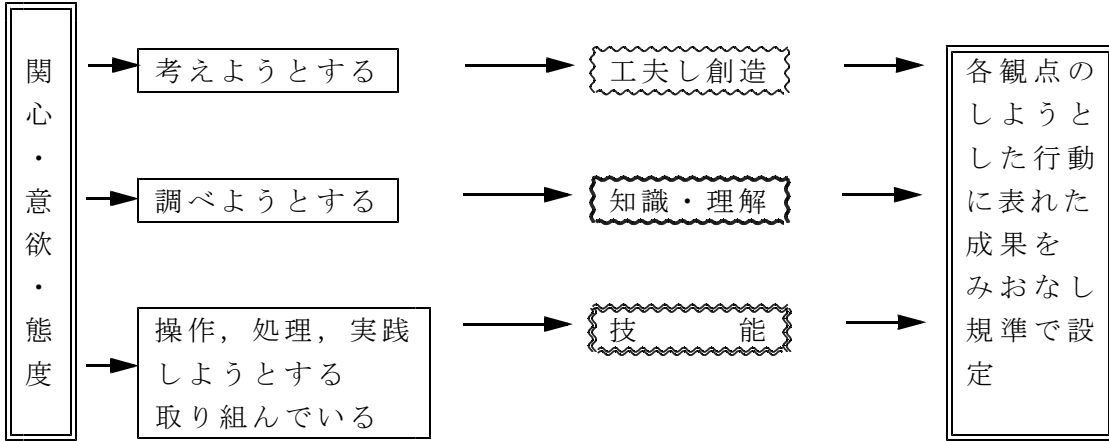
関心・意欲・態度の読み取り

「関心・意欲・態度」は，「知識・理解」，「技能」，「工夫創造」にかかわる



「関心・意欲・態度」他の観点での「みなし」

規準表の表現から

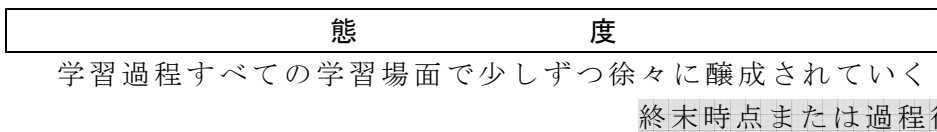
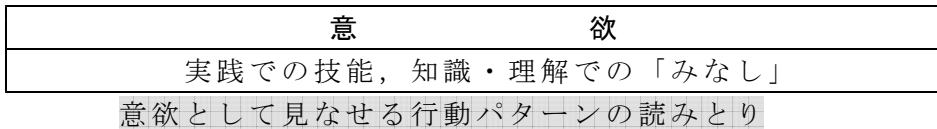
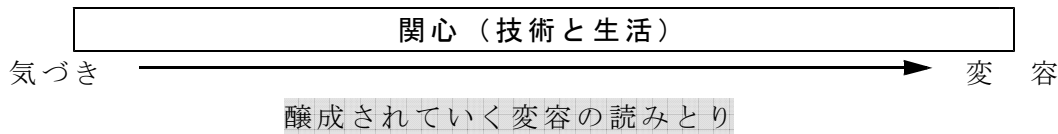
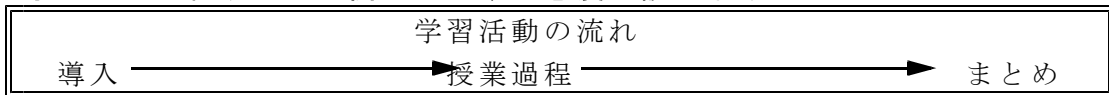


II 関心・意欲・態度を分けてみる

関心・意欲・態度を分離したら

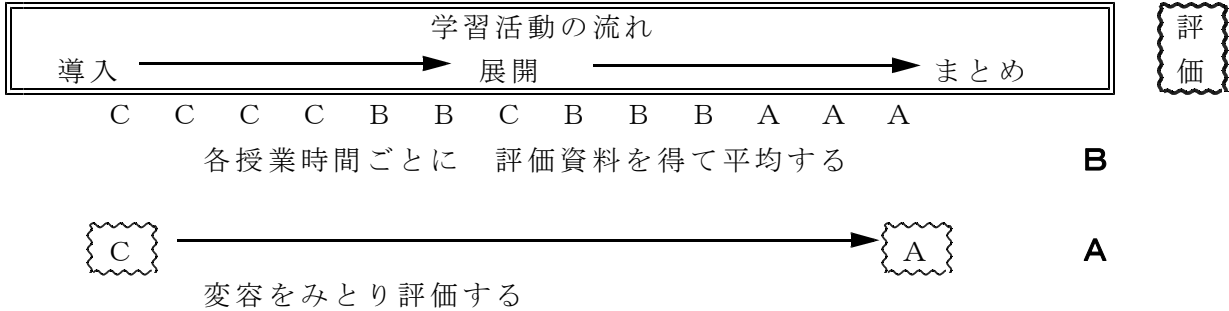
	醸成する力	一時的な力
関心	技術そのものに関する関心 エネルギー・材料・情報モラル等に関する関心	授業への関心 提出物・宿題
意欲	学習を推進するエネルギー 自ら進んで学習, 意欲的に活用・調べ・表示・考え・操作	授業参加への意欲 発言や挙手の回数
態度	技術を活用する態度 生活を改善する実践的な態度	授業を受ける態度 忘れ物・私語・遅刻

学力として育成された関心・意欲・態度の読み取り



Ⅲ 授業単位でなく、長いスパンでみる

授業での読みとりと変容の違い

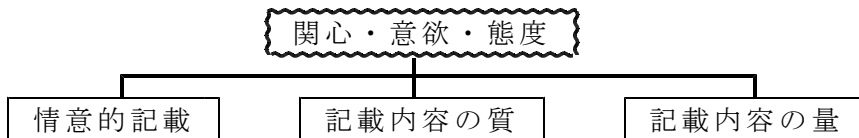


Bと評価するか、Aと評価するか どう捉えるか→長いスパンで学習変容を読みとる

少ない評価資料で済む長いスパンで評価する
 (授業本来のねらいの達成や支援活動に集中するため)

関心・意欲・態度の読みとり

記載内容の変容の読みとりの視点



ノートの記載内容の変容からのみとり

- ・ 表現内容の量的な変化
- ・ 表現内容の質的な変化
 - 広がり
 - 深化や発展
 - メリットとデメリット等の比較
 - 具体例を出す。
 - 他の内容との連動
- ・ 次課題の具体的な目標
- ・ **記載内容の量**
 - 記載量が増える
 - ～な感じだった
 - ～できた, ～できる
 - ～したら～になった
 - (やり方, 名前など) がわかった
- ・ **記載内容の質**
 - 具体的な記述
 - 気づき・発見
 - 原因・理由・しくみ (～だから うまくいく / 失敗する)
 - 技術の必要性 / 目的 ～のために
 - 学習以外への広がり
 - 生活との結びつき
 - 比較した内容
 - 比べて～だった, 違いがある, いろいろある
 - 生じた疑問
 - なぜだろう? どうしてだろう?

・情意的変容の記載

前向き・積極的

もっと、やってみたい、～したい、まだ
生活で、使ってる

以前の自分と比較して

興味を持った、すごい、びっくり、おどろいた
がんばって、好きになった

一文が「しかし、だけど」前は、前より、以前は、最初は、初めは
につながる分になる ～だったけど、～になった

平面的が深みを増す

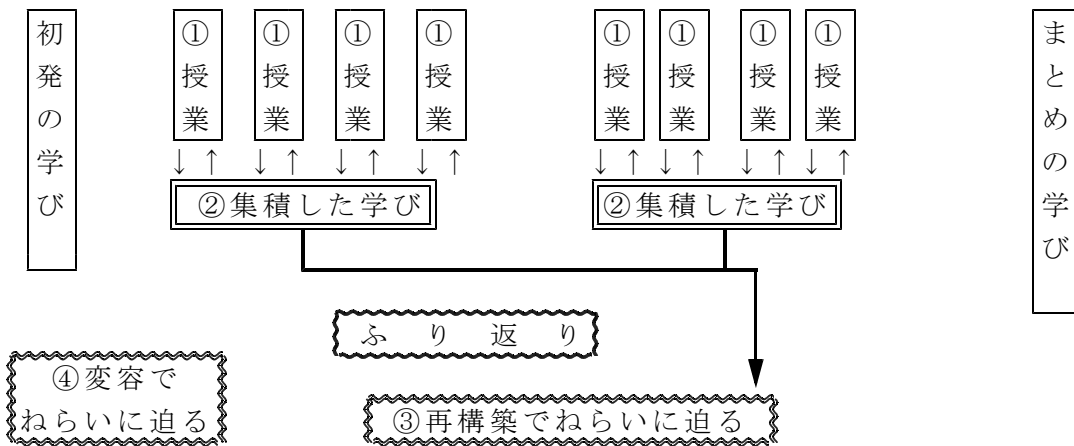
4 観点の性格とは？

頭脳 認知領域	記憶・思考・判断 活動 分かる・知る・考える・判断	思考・判断 知識・理解
手足・身体 運動神経領域	身体的 活動 道具等を使いきる	技能 表現
心情・気持ち 情意領域	情意・推進 活動 心情が態度・行動に表れる	関心・意欲 態度

ふり返りの機能

- ① 毎授業をふり返り、各授業での学びを確認する
- ② 授業後との学びをふり返り集積し、集積から見えてくるものを学ぶ
- ③ 学習全体をふり返り、整理・まとめたりして、学びを再構築し、題材でねらう学力を確認する
- ④ 最終段階で初期の学びをふり返り、自分の変容を知る
- ⑤ 学習をふり返り、次の目標を定めたり、学習成果を生活に生かす
- ⑥ ①～⑤のふり返り、次の目標を定めたり、学習成果を生活に生かす

ふり返り ①～④の関係



ワークシートの記載からの評価

学習する題材で関心を向けさせたい”キーワード”（「材料って何だろう?」「コンピュータにできること」「工具」など）を考え、キーワードについて感じたことを「題材初発の感想」「授業後との感想」「題材終末の感想」の3種類のワークシートに記載させ、「題材初発の感想」「題材終末の感想」を並べて変容を読み取り関心・意欲・態度」を評価する。

読み取りの評価基準

順	読み取りの視点	読み取りたい変容	評
1 段階	量の減少・ 同等	○ふり返りがなく記述の量が減った ----- ○単語が文章になったため記載量が減少した。 （量でなく質で読み取り，変容を判断する）	C
	量の増加	○知識等が広がり，単語数・文書量・行数等の記載量が増加する。 （名称の羅列，思い出し，単なる感想）	
2 段階	学習した内 容の記載	○気づきや思いが意識されるようになって学習内容と結び付き，知識量が拡大し，学習した内容の記載が見られる。 （「働きかけ」の言葉や，授業で学習した用語が記載されている）	B
	学習外の内 容の記載	○学習した内容以外にも目が向き，興味の広まりや深まりの記載が見られる。 （学習した内容以外への新たな気づき・発見・知識，理解の深まり，学習した内容との比較，観察の様子）	
3 段階	情意的な 内容の有無	○知的好奇心，生活との結びつけ，新たな疑問などの記載が見られる。具体的な興味や驚き・感動のように，感情について記載が見られるようになる。 ○社会への目を向ける気持ちの芽生えや具体性を伴った感覚的な記載が見られる。	A
	態度や行動 へと変化	○具体的に行動しようとする態度や行動の記載が見られる。 （学習成果を生活に生かそうとする態度，自分なりの価値観をもってよりよい方向へ向上使用とする態度，前向き・積極的・持続的であろうとする決意，授業への期待など）	
	概念変化	○技術や生活あるいは技術分野や家庭分野の内容への本質に迫る概念（考え方）の変化，社会や将来の技術や生活を大切に考えるなどの記載が見られる。 ○教科のねらいにそう個性的な進展が見られる記載が見られる。	

「材料って何？」をキーワードに読み取りをした具体例

順	読み取りの視点	記述例	評
1 段階	量の減少・ 量 の 増 減	<p>(質の変化がみられない)</p> <p>-----</p> <p>(領域の広がりを読み取れない)</p>	C
	質 の 変 化	<p>学習した内 容の記載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木材には繊維方向がある ・合板や集成材など、いろいろな種類がある ・木材には、針葉樹と広葉樹がある ・材料には木材・金属・プラスチックがある <p>-----</p> <p>学習外の内 容の記載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料にあった工具の使い方がある ・金属には繊維がない ・他にはゴム、布、ガラスなどの材料がある ・針葉樹は建築材として使われることが多い ・建物にも木材が使われている 	
3 段階	情 意 的 な 内 容 の 有 無	<p>知識等が気 持ちへと移 る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の家でいろいろな木材を見つけた ・通学路でいろいろな材料を見つけた ・家のリモコンにはどんな材料が使われているだろう ・金属の棚の方が丈夫そうに感じる ・木の肌ざわりは思ったよりいいな <p>-----</p> <p>態度や行動 へと変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分でも材料を見つけにいった ・材料の形に合う工具を選ぶようになった ・木材の勉強をしたら 100 円ショップに行って木の製品を買うようになった <p>-----</p> <p>概念変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的に合う材料を選ぶことが大切 ・その場所に適した材料を選ぶべきだ ・以前は木なんてみんな同じだと思っていただけ、合板とか集成材とかいろいろな種類があって、それぞれ使い分けるのが大事だと思うようになった。 	A